

— 特 許 記 事 —

(最近の製鉄鋼業界に於ける発明)

特許出願公告 (昭和 30—2—24)

- | 公告番号 | 発 明 の 名 称 | (発明者) | 出願人 |
|-----------|--|---------|------------|
| 昭 30—1203 | 旋削屑及鉄粉用熔銑炉
銑解帯の上部中央に原料投入口を設け其周囲に投入口内の装填物を加熱する専用瓦斯抜孔を特設し、新銑及塊状銑を混入することなく旋削屑及鉄粉のみを原料として銑銑せしめるもの。 | (斎藤元良) | K.K. 栗本鉄工所 |
| 昭 30—1205 | 鋼 調 質 剤
油、水、アルカリ、澱粉及びポリアクリル酸ソーダ、ポリビニールアルコール、ポリメタアクリル酸ソーダ、カルボキシルメチルセルロース等の合成高分子物質を混用し、必要に応じ之に乳化剤を添加したもの。 | (豊島保雄) | 同 人 |
| 昭 30—1209 | 媒体加熱による複合鑄造法
金属或は合金の成形固体を鑄型内に装置し、別に銑融した塊類、銑材等の還元性或は中性の媒体をこの鑄型内に注入して前記成形固体面を浸漬して無酸化加熱し、或はさらに注入を継続することによつて加熱を調整し、以て撰択温度に至らしめ次いで異種の金属或は合金の融体をこの鑄型内に鑄入する方法。 | (川那部甚蔵) | 同 人 |

特許出願公告 (昭和 30—2—28)

- | | | | |
|-----------|---|--------|-------------|
| 昭 30—1353 | 回転式重油加熱炉
円凹形の上部炉体と円凸形の下部炉体とを互いに対向接近させて、両者間に燃焼室を形成し、上部炉体の周縁の一部に切線方向の重油噴射孔を穿ち、上部炉体の外周の數ヶ所を支持し下部炉体の中央部下面を支柱により回転及び昇降調節自在に支持したもの。 | (村井定吉) | 同 人 |
| 昭 30—1354 | 矯正焼入装置
焼入れすべき杆材を挾持すべき回転自在のチャックに杆材を挾着し杆材の軸線方向に移動し得る台の上に杆材の歪曲を矯正すべき振れ止めと加熱用バーナーと冷却用噴水嘴とを取付け台を移動せしめることにより歪曲の矯正、加熱冷却を連続的に実施し得るようにしたもの。 | (山田鋼一) | 日本ミシン製造K.K. |
| 昭 30—1357 | 連続金属造塊法
上下に開口した大切断面積の水冷連続造塊鑄型上に金属熔湯を注入するに当り流下熔湯に対し裏面側に到着する直前に四周より窒素ガスを秒速 100 m 以上で旋回せしめつゝ横向けに吹付け然る後流下熔湯と逆流せしめて放出する方法。 | (斎藤克己) | K.K. 神戸製鋼所 |

特許出願公告 (昭和 30—3—9)

- | | | | |
|-----------|---|--------|----------|
| 昭 30—1552 | 含クロム鉄鉱石から製鉄原料を得る処理方法
微粉砕した含クロム鉄鉱石にソーダ灰、石灰並に適量の水を加え、均一に混和しペレットに成型した後酸化雰囲気中で加熱して内部まで酸化させ、熱間水中に投じて可溶物を抽出除去する方法。 | (松塚清人) | 八幡製鉄K.K. |
| 昭 30—1554 | 鑄物砂の粘結剤の製造法
澱粉、蜂蜜、デスストリンの混和物を加熱攪拌し熱間アルコールに溶解したサリチル酸を加え冷却後アルギン酸を添加混合する方法。 | (林弘三郎) | 同 人 |

特許出願公告 (昭和 30—3—16)

- | | | | |
|-----------|--|---------------------|-------------------------|
| 昭 30—1701 | 電気炉用電極の補給法
電極柱の夫々の窩から周期的に導電棒を抜取り、導電棒の抜取られた窩内に炭素質ペーストを導入し抜取られた導電棒を追加せる塊の穴を通し更にそれと連る窩内に挿入し且上記ペースト中に下端部を押込み、窩内の上記炭素質ペーストを導電棒に焼着する方法。 | (ブルックス・サンフォード・ライルス) | アルミナム・コンパニー・オブ・アメリカ (米) |
| 昭 30—1702 | 出銑口閉塞機
出銑に閉塞用ノズルと圧縮粘土を該ノズルに供給連結装置を有する粘土圧縮装置とを備え上記ノズルはその軸線が水平線に対して一定の角度を維持するよう装置されたもの。 | (ウィリアム・アイスラー・スミス) | アメリカン・クラッドメタル・コンパニー (米) |
| 昭 30—1703 | 矯正焼入装置
小角度を以て交叉して回転変速自在に支持したローラーの間に焼入れすべき杆材を挾持移動せしめるようにしその中間にバーナー及噴水嘴を設けて連続的に焼入加工するもの。 | (山田鋼一) | 日本ミシン製造K.K. |
| 昭 30—1705 | チタニウム合金鑄鉄
モリブデン 0.5~1.2%, ニッケル又は銅 0.5~5%, チタニウム 0.2~10.0% を添加したもの。 | (梅津七蔵) | 同 人 |
| 昭 30—1712 | ピレット・テイルター
中空胴の一端口縁に臨んで対向的に支持したローラーの軸柄を適宜駆動機構により動作せしめてローラーの対向距離を変化せしめて該中空胴を任意に回転するようにしたもの。 | (西村三好) | 住友金属工業K.K. |